

討論の行き詰まりに対する話題展開

—日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較—

水野瑛子 柴田龍希 俵山雄司

要 旨

本稿では、日本語母語話者（以下、JNS）と中国人日本語学習者（以下、CJL）の日本語での討論を比較し、討論が行き詰まった際にどのような話題展開が起こるのかを明らかにした。討論のテーマは、「1ヶ月無人島で生活する際に、持っていく最善の物3つを決める」というものであった。話題のまとまりである「話段」の観点から分析した結果、討論の行き詰まった箇所では、「笑い」「沈黙」「感動詞」「沈黙に耐えかねた発話」の4つの現象が起こっていた。その中でも「沈黙に耐えかねた発話」はJNSの討論のみに見られた特徴であった。また、討論の行き詰まりの後には、「条件すり合わせ」「条件確認」「持ち物確認」「持ち物募集」「持ち物提示」という5つの話題展開が見られた。JNSの討論では「条件すり合わせ」によって、CJLの討論では「持ち物募集」と「持ち物提示」によって行き詰まりを解消する傾向が見られた。また、共有されていた意見を再度確認する際には、JNSの討論では「条件確認」、CJLの討論では「持ち物確認」が行われていた。以上の結果から、討論が行き詰まった際、日本語母語話者は、条件について話し合うことで協調的な雰囲気を保ちながら討論を進めていくのに対し、中国人日本語学習者は、結論に直結する話し合いによって討論を進めていくと結論付けた。

キーワード

討論、行き詰まり、話題、日本語母語話者、中国人日本語学習者

目 次

1. 研究背景と研究目的
2. 先行研究

3. 調査方法

3. 1 調査概要

3. 2 分析方法

4. 結果

4. 1 討論が行き詰まった話段

4. 2 討論の行き詰まりの後の話題展開

5. 討論の行き詰まりと「課題達成・課題非達成」

6. まとめと今後の課題

1. 研究背景と研究目的

大学では日本人学生と中国人留学生が討論をする場面は珍しくなくなつた。しかし、日本語母語話者と日本語学習者の討論は、話題展開が異なることによって、上手く進まない可能性がある。討論とは、「会話参加者間に『結論に向けて意見をまとめていく』意識がある談話」だといわれている（御園生・程田・アネークポンパン・柳田、2009：35-36）。久米・徳井・徐（2000）では、アメリカ人と中国人の討論が課題達成型であるのに対し、日本人の討論は課題非達成型であることが指摘されている。課題達成型と課題非達成型に注目した研究には、徳井（2002）や御園生他（2009）などが挙げられるが、これら全ては、結論を導き出す必要はない自由度の高い討論であった。自由度の高い討論では、討論が行き詰まっても、結論に至らないことを危惧する必要はない。しかし、制限時間が設けられている、また結論に至ることを強制されているなど、条件が限定された討論では、討論の行き詰まりが生じた場合、結論を出そうと何らかの対処を行うのではないだろうか。その対処の仕方が日本語母語話者と中国人日本語学習者で異なる場合、討論の進行に支障をきたす可能性がある。

本研究では、「制限時間内に結論を導き出さなくてもよく、必ず守るべき条件がない（あるいは少ない）討論」を「自由度の高い討論」、「制限時間内に、一定の条件の下、結論を導き出すことを強制する討論」を「条件が限定された討論」と定義する。そして、条件が限定された討論で、日本

語母語話者（以下、JNS）と中国人日本語学習者（以下、CJL）の話題展開を比較し、どのような違いが見られるのかを明らかにしていくことを目的とする。具体的には、（１）どのように討論の行き詰まりが起こるのか（２）討論が行き詰まった際にどのような話題展開が起こるのか（３）条件が限定された討論における「行き詰まり」と「課題達成・課題非達成」の関係を明らかにする。

2. 先行研究

ここでは、討論の分析結果として課題達成と課題非達成に着目している先行研究を検討し、本研究の意義を述べる。

久米他（2000）では、日本人、中国人、アメリカ人の複数人での討論が質的に分析され、比較された。討論は、「私たちの国のリーダーにはどんな人がふさわしいと思うか」というテーマで行われ、結論を導くことは条件となっていない自由な話し合いであった。分析の結果、最も特徴的なものとして、日本人よりもアメリカ人と中国人のほうが課題達成の傾向が強く見られることが挙げられている。主題からのずれの度合いも、日本人が最も大きく、次いでアメリカ人、中国人という傾向であった。また、盛り上がりや冗談・笑いが日本人の特徴として挙げられている。ここから、日本人は課題達成よりも、「場」を楽しむことや人間関係の維持を重視する傾向があることが示唆されている。

徳井（2002）では、久米他（2000）を踏まえ、上下関係のない社会人の男女3人組（3グループ）、5人組（2グループ）の日本語母語話者同士の討論が分析された。ここでは、話題移行のきっかけとなった発話が課題達成型か否かを分析し、話題移行の談話例と話題移行のきっかけとなった発話の特徴について、再分析と考察が行われている。話題は、課題非達成型の発話で移行する可能性が高いことが明らかにされ、課題非達成型の発話には「臨場感のある場面の提示」「第三者の発話の引用」「情報要求」「仮面発話」「討論の方法に関する発話」のような特徴があることが確認された。また、場の盛り上げや聞き手のあいづち、笑いが話題移行の影響要因の一

部になっていることも指摘されている。

御園生他(2009)では、3名を1グループとした日本語母語話者6グループと中国語母語話者6グループの計12グループの討論が分析された。討論は、「仕事、もしくは恋人に求めるベスト5を決める」というテーマで行われ、条件5つを時間内に決めることは必須事項になっていなかった。ここでは、目的を達成するための内容をもたない「脱線話段」の観点から、日本語母語話者と中国語母語話者の討論の特徴が明らかにされた。日本語母語話者の討論では脱線話段が続くことから、協調的な雰囲気を保とうとするため、討論から外れた話題でもそれを即中断することを避ける傾向にあると考察されている。また、討論話段の展開中に「討論形式」や脱線話段が割り込む「割り込み」現象が見られることも協調的な雰囲気を保とうとする特徴の一つとされている。一方、中国語母語話者では脱線話段が続かない傾向が観察されたことから、会話参加者間の協調的な雰囲気よりも、討論の目的を優先させていると指摘されている。

これまでの研究では、日本語母語話者・中国語母語話者・英語母語話者の討論についてさまざまな特徴が明らかにされてきた。しかし、「討論の行き詰まり」の観点からそれぞれの特徴が検討された研究は、管見の限り見当たらない。「討論の行き詰まり」という観点から日本人母語話者と中国人日本語学習者の討論を比較し、その特徴をお互いが意識することは、お互いの摩擦を防ぎ、討論を円滑に進める一助となると考える。

3. 調査方法

3. 1 調査概要

本研究では、実際の会話データを分析対象とする。調査対象者は、親しい友人3人を1グループとし、JNS 4組(JNS1~4)、CJL 4組(CJL1~4)の計8グループのデータをICレコーダーで収録した。調査対象者の年齢は全員が20代で、中国人日本語学習者は全員日本語能力試験N1に合格している。ここでは、ジェンダーを分析観点に入れていないため、各グループの男女比は一定ではない。

討論のテーマについては、興味関心や知識量の差によって発話量に差が出ないように考慮した。討論は、「あなたは、これから1カ月、無人島で1人で生活することになりました。3つだけ持ち物を持っていける場合、何を持っていきますか。まず、自分1人で、持っていく物を考えてください。その後、3人で話し合って、1人で生活するうえで最善の物3つを決めてもらいます。なお、話し合いは、すべて『日本語』で行ってください。」というテーマを提示した。「無人島で生活する際に持っていく持ち物」は「政治経済」や「スポーツ」などに比べ、討論をする際に発話量に差が出にくいテーマであると考えた。討論の前に1人で持ち物を考える時間を3分間設け、討論時間は15分とし、15分経ったら強制的に終了させた。収録したデータは、調査者が討論開始の合図をしてから、調査対象者が討論で決まった持ち物3つを調査者に報告するまでの15分間である。この15分間を「日本語会話コーパス書記化法」(杉本2004所収)によって文字化した。表記は漢字仮名混じり文で、最初の発話者を「A」、次の発話者を「B」、もう一人の発話者を「C」で示した。

3. 2 分析方法

本研究では、討論の話題展開を比較する際に「話段」による分析を行う。「話段」は、佐久間(2002)では「提題表現で取り上げられるものが『最小の話題』であり、『最小の話題』の連鎖が話題のまとまりを成して、そのまとまりが『話段』である」と定義されている。本研究でも、これを話段の定義とする。話段区分は、河内(2003)の手法を参考に、文字化資料を調査者2人がそれぞれ内容のまとまりで区切って持ち寄り、話し合いにより最終的なラベル付けを行った。調査者間で区分が一致しない場合は、見解が一致するまで議論を行った。以下の表で、「話段」の例を示す。

表1 話段の例 (JNS1)

話段	
1	討論の方針 (1-7)
2	Cの意見 (8-12)
3	Bの意見 (13-18)
4	Aの意見 (19-25)
5	ナイフ (26-30)

上記の「1 討論の方針」という「話段」は、発話番号1-7の発話で構成されており、グループのメンバーが各自持ち物を出していく方針を確認している。「2 Cの意見」「3 Bの意見」「4 Aの意見」では、グループのメンバーが各自自分の意見を述べ、その意見について話し合われている。そして、「5 ナイフ」から、そこまでに提案された持ち物の検討が行われている。このように話題のまとまりで区切られたものを「話段」として、分析を進めていく。

4. 結果

本研究では、誰からも意見が出ない状況で、同じ話題が継続せず、話段が切り替わる箇所を「討論が行き詰まっている」と判断した。以下、4.1では、討論が行き詰まった話段の回数と、そこで生じている言語現象を取り上げる。4.2では討論が行き詰まった後の話題展開について分析を行う。

4.1 討論が行き詰まった話段

まず、討論が行き詰まった話段について分析を行った。その結果、討論の行き詰まった箇所では、「笑い」「沈黙」「感動詞」「沈黙に耐えかねた発話」の4つの現象が見られた。以下に討論の行き詰まりの回数と行き詰まりの箇所で起こった現象の回数を示す。

表2 討論の行き詰まりの回数と行き詰まりの箇所で起こった言語現象の回数

	討論の行き詰まり	笑い	沈黙	感動詞	沈黙に耐えかねた発話
JNS1	4	1	1	2	0
JNS2	9	0	5	3	1
JNS3	6	0	5	0	1
JNS4	2	1	1	0	0
CJL1	8	0	6	2	0
CJL2	6	0	5	1	0
CJL3	3	1	1	1	0
CJL4	3	0	2	1	0

討論の行き詰まりの回数は、JNS の討論では、JNS1から JNS4の全てを合わせて21、CJL の討論では、CJL1から CJL4の全てを合わせて20の行き詰まりが起こっており、JNS と CJL で大きな差は見られなかった。ここから、JNS でも CJL でも条件の限定された討論では、行き詰まりが一定程度見られることがわかる。

行き詰まりの際に生じる言語現象としては、JNS では「笑い」が2例、「沈黙」が12例、「感動詞」が5例、「沈黙に耐えかねた発話」が2例見られた。CJL では「笑い」が1例、「沈黙」が14例、「感動詞」が5例見られ、「沈黙に耐えかねた発話」は見られなかった。JNS でも CJL でも討論が行き詰まった際には、「沈黙」が起こることが一番多く、次いで「感動詞」、「笑い」と続き、大きな差は見られなかった。

ここから、討論の行き詰まりの箇所で行った現象について詳しく見ていく。「笑い」の例を以下に示す¹⁾。

例1 討論の行き詰まり方「笑い」(JNS4)

発話番号	話者	発話	話段	
264	A	てか冬んなったらむしろやっぱ布団	6 布団	
265	C	だよ//ねー		
266	B	//布団だよねー		
267	A	だよ//ねー		
268	C	//ほら		
269	B	確か//にねー		
270	C	//これ季節によるわ		
271	B	//でも布団もってけば寝るもの作る必要が無いから布団はあり、ありだと思う		
272	C	すごい影響されてるよねわた//しに		
273	B	//うん、いやいやいや//いいなあと思ってほんとに作んのめんどくさいじゃんって		
274	C	// 笑い		
275	A	// 笑い		
276	C	//えてかこれ季節感、だっこれ季節がない、のかな?もしかして		7 条件すり合わせ
277	B	季節がないんじゃない、た//ぶん		
278	C	//うじゃあ一年中じゃあ春っていうことで//いい、一応		
279	B	//んあー、そんな感じでいいんじゃない//ない		
280	A	//春って定義して		

話段「6 布団」では、無人島に持っていく持ち物として「布団」が検討されている。布団を持っていくかどうかは270でCが「季節による」と限定を付け、271でBが「布団はあり」と賛同の意を示しているが、次の272でCはBに対して「すごい影響されてるよね私に」と発話している。この発話自体は、Bの意見を肯定も否定もしていない。そして、275では、Aの「笑い」が起こっているが、この笑いは、この話段以前にCが提案していた「布団」を、Bが疑問や反論を持たずに支持していることに対して笑っていると考えられる。ここからの話題展開では、「布団」を持ち物として採用するかどうかの議論は行われず、「布団」の持ち物としての決定には至らなかった。また、次の話段でも「布団」についての検討が行われていないことから、ここで討論が行き詰まったと考えられる。次に、「沈黙」の例を以下に示す。

例2 討論の行き詰まり方「沈黙」(JNS3)

発話番号	話者	発話	話段
132	B	そうでも布ねー、迷った	6 布
133	A	//うん	
134	B	//わた	
135	B	しなんかさいしゅうて//きに助け出	
136	C	//あー	
137	B	してもらなきやいけないのかな	
138	A	わたしもそう思った	
139	B	そしたらーなんかさー白い布とかこうやってやらなかんと思ったの、そうそうそう	
140	C	確かに	
141		..	
142	C	生活することになりましたってどのくらいの危機感なのかな	
143	B	そこな//んだよね	
144	A	//そっかー	
145	B	でも迎えに来てくれるならいい//よね	
146	C	//むか	
147	C	えに来てくれるんだったら//ぜんぜん	

話段「6 布」では、無人島に持って行く持ち物として「布」が検討されている。ここでは、布を提示した理由として、135、137、139でBが「助け出してもらうため」だと述べており、それに対してAもCも138と140で同意している。しかし、この後、誰からも意見が出ず、沈黙が起きている。次の話段でも「布」についての検討が行われていないことから、ここで討論が行き詰まったと考えられる。次に、「感動詞」の例を示す。

例3 討論の行き詰まり方「感動詞」(CJL1)

発話番号	話者	発話	話段
92	A	じゃ、水もいるんじゃない	7 水
93	B	水	
94	A	水、はい	
95	B	でも、無人//島	
96	A	//無人島、ま、海の中の無人島でしょ	
97	C	一か月分の水どう持つんですか？	
98	A	だから浄水器を持てば	
99	C	あー、浄水器	
100	A	はい、そういう電気のいらないを持っていけば、なんか海、海の水、ちょっと塩が入っている水を浄化することができて、ちゃんと淡水を飲めることができるんじゃないかと//考えて、やはり浄水器がいいんじゃないかと//思いましたね	
101	C	//うーん////うーん	
102	B	//そうですね	
103		..	
104	C	うーん	8 絵本
105	A	ほかに	
106	C	わたしは絵本	
107	A	絵本	
108	C	絵本持ちたいです	

話段「7 水」では、無人島で暮らす際の「水」について検討されている。Aが92で「水」が必要であると言及し、96と98で周りに海があるため、浄水器を持っていくことを提案する。しかし、持ち物として「浄水器」を採用するかどうか決まらず、103で誰からも意見が出ず、104でCから「うーん」という感動詞が発せられている。次の話段でも「水」についての検討が行われていないことから、ここで討論が行き詰まっていると考えられる。次に「沈黙に耐えかねた発話」の例を示す。

例4 討論の行き詰まり方「沈黙に耐えかねた発話」(JNS3)

発話番号	話者	発話	話段
331	A	暇だ//もんね	15 無人島での暇な時間
332	B	//あー	
333	B	そうか暇だ//ねー	
334	C	//うん	
335	C	一か月暇だよー、なにするんだろー	
336		・・・	
337	A	一か月かー	
338	C	でも食べ物の心配がなくなったら寝るところー//どれだけ環境をよくするかだよね、自分	16 条件すり合わせ
339	B	//そうだねー	
340	B	うんうんうん	

話段「15 無人島での暇な時間」では、1ヶ月間無人島で暮らしたら、暇な時間が生じると想定され、何をするかについて話されている。しかし、ここでの結論は出ず、336で沈黙が起こり、討論が行き詰まっている。この沈黙に耐えられなくなり、Aが337で「一か月かー」と発話している。これは、335のCの発話にある「一か月」という言葉を繰り返したものであり、次の話段に直接関係していない非実質的な発話である。このように、沈黙に耐えかねて発せられる非実質的な発話で話段が切り替わるものを「沈黙に耐えかねた発話」とした。

この「沈黙に耐えかねた発話」は2例ではあるが、JNSのみに見られた現象であった。討論が行き詰まった際に、前の話者と同じ言葉を繰り返すなどの次の話段に直接関係していない非実質的な発話をすることは、JNSの特徴である可能性がある。

以上の結果から、討論の行き詰まった話段に生じる現象についてまとめる。討論の行き詰まった話段では、「笑い」「沈黙」「感動詞」「沈黙に耐えかねた発話」という4つの現象が起こっていることが示された。JNSでもCJLでも、討論が行き詰まる際に沈黙になることが最も多いことが明らかとなった。「沈黙に耐えかねた発話」は2例ではあったが、JNSのみに見られた特徴であった。

4. 2 討論の行き詰まりの後の話題展開

次に、討論が行き詰まった後の話題展開について見ていく。討論が行き詰まった後には、JNSでもCJLでも討論の行き詰まりを解消しようとする話題展開が見られた。話題展開は、「条件すり合わせ」「条件確認」「持ち物確認」「持ち物募集」「持ち物提示」の5つに分類をした。この5つの話題展開は、御園生他（2009：39）に従うと、全て「結論を決めるという目的を達成するための内容をもつ」ものであり、行き詰まりの後の話題展開では、目的を達成するための内容を持たない「脱線」は見られなかった。以下に、討論の行き詰まりの回数とそれに対する話題展開の回数を示す。

表3 討論の行き詰まりの回数とそれに対する話題展開の回数

	討論の行き詰まり	条件すり合わせ	条件確認	持ち物確認	持ち物募集	持ち物提示
JNS1	4	3	0	1	0	0
JNS2	9	3	2	0	2	2
JNS3	6	4	1	0	0	1
JNS4	2	1	0	0	0	1
CJL1	8	1	1	2	2	2
CJL2	6	0	0	0	5	1
CJL3	3	0	0	0	1	2
CJL4	3	1	0	0	0	2

JNSでは「条件すり合わせ」が11例、「条件確認」が3例、「持ち物確認」が1例、「持ち物募集」が2例、「持ち物提示」が4例となっている。それに対して、CJLでは「条件すり合わせ」が2例、「条件確認」が1例、「持ち物確認」が2例、「持ち物募集」が8例、「持ち物提示」が7例となっている。ここから、JNSもCJLも討論が行き詰まった際には、課題達成のために行き詰まりを解消する行為を行うが、その対処の仕方が異なっていることがわかる。

ここから、討論の行き詰まった後の話題展開について詳しく見ていく。まず、「条件すり合わせ」の例を示す。

例5 「条件すり合わせ」の話題展開 (JNS4)

発話番号	話者	発話	話段
272	C	すごい影響されてるよねわたしに	6 布団
273	B	うん、いやいやいや//いいなあと思ってほんとに作んのめんどくさいじゃんって	
274	C	{笑い}	
275	A	// {笑い}	
276	C	えてかこれ季節感、だっこれ季節がない、のかな?もしかして	7 条件すり合わせ
277	B	季節がないんじゃない、た//ぶん	
278	C	うじゃあ一年中じゃあ春っていうことで//いい、一応	
279	B	んあー、そんな感じでいいんじゃない//ない	
280	A	春って定義して	

話段「6 布団」では、無人島に持っていく持ち物として「布団」が検討されていた。この話段では、布団は持ち物として「あり」と提案された。しかし、その後意見が出ず、275で笑いが起き、討論が行き詰まっている。そこで、次の話段で「条件すり合わせ」が行われている。ここでは、「無人島にはどの季節に行くのか」という前提について話し合いが行われ、「一年中春」と仮定して、討論を進めていくことが決定された。このように行き詰まりが起こった後に、条件をすり合わせることで、討論の行き詰まりが解消されていたものを「条件すり合わせ」とした。次に、「条件確認」の例を示す。

例6 「条件確認」の話題展開 (JNS2)

発話番号	話者	発話	話段
106	A	／いやそれはないんじゃない？一か月生活することになり／／ました	8 条件すり合わせ
107	C	／あ、そうか、い、あ、そうか一か月か	
108	A	うん	
109	B	漂流したわけじゃないから	
110	C	あー／／そうか	
111	A	／それはもう期間限定付／／きでってゆう感じ(*)	
112	B	／そうそこもなんか自主的に向かっている時点でわりと余裕を感じるんだよね	
113	C	{笑い}	
114	C	あーそっか	
115	A	んー	
116			
117	A	まあじゃとりあえず、無人島、じゃあインフラそこそこあるってまあその最善のも／／のってそういう感じで行く？	9 条件確認
118	C	うん	
119	A	遊び持たせて／／まあ食料源	
120	B	／ Wi-Fi はさすがにないとして	
121	C	うん	

話段「8 条件すり合わせ」では、課題文の条件の解釈についてすり合わせを行っている。ここでは、無人島に自主的に向かっているということで、グループのメンバーの認識を一致させたあと、誰からも意見が出ず、116で沈黙が置き、討論が行き詰まっている。そこで112でBが以前にメンバーで共有していた「インフラはそこそこある」という条件を再度話題にすることで行き詰まりを解消させている。このように以前に共有していた条件について、再度話題に出し、行き詰まりを解消する話題展開を「条件確認」とした。次に、「持ち物確認」の例を示す。

例7 「持ち物確認」の話題展開 (CJL1)

発話番号	話者	発話	話段
202	A	万能薬ですか？	13 薬
203	C	{笑い}	
204	B	じゃ、薬よりは、医者さんを{笑いながら}一緒に	
205	A	あ、ま	
206	C	人／＼はだめ	
207	A	／＼人はだめ、だめです、前提です	
208	B	{笑い}	
209			
210	B	うーん	
211	A	電気のこぎり、ナイフ、虫よけ、・・・あとはさきのなんだっけ	
212	B	布団？	
213	A	あ、布団	
214	C	布団、あ、紐、紐？	
215	A	あ、紐紐紐、じゃ、縄でいいですか？	
216	C	縄でいい	

話段「13 薬」では、無人島に持っていく持ち物として「薬」が検討されていた。204でBが薬よりも医者を連れて行ったほうがいと提案したが、206と207でAとCによって反対されてしまう。その後、210でBが「うーん」という感動詞を発し、討論が行き詰まっている。そこで、次の話段「14

多数決」の冒頭で「持ち物確認」が行われている。ここでは、「電気のこぎり、ナイフ、虫よけ」といった今までに候補として挙げられていたものを再度確認する話題展開が見られた。そして、その後多数決へと続いていく。このようにこれまで話し合った持ち物を再度確認することで、行き詰まりが解消しているものを「持ち物確認」とした。次に、「持ち物募集」の例を示す。

例8 「持ち物募集」の話題展開 (CJL2)

発話番号	話者	発話	話段
110	B	でも一か月の分の水は、どれくらいかかる	5 水
111		{笑い}	
112		..	
113	C	もし雨が降れば、この//雨が飲めるかな {笑い}	
114	B	/んー	
115	A	{笑い}	
116	B	{笑い}	
117	A	んー	
118	C	はい	
119		
120	A	他は	6 ライト
121		{9秒}	
122	A	ライトは、ほかは何か	
123	B	ライト	
124	C	ライト	
125		{5秒}	
126	A	みち、道を探すときは、//つか	

話段「5 水」では、無人島に持っていく持ち物として「水」が検討されていたが、方針が決定できなかった。その後、119で沈黙が起こり、討論が行き詰まっている。そこで、120でAが「他は」と発話し、他の持ち物を募集している。Aが持ち物を募集した後に、再度沈黙が起こり、誰からも意見が出なかったことから、Aは自ら「ライト」を持ち物として提案している。このように、他の持ち物を募ることにより、行き詰まりが解消されているものを「持ち物募集」とした。次に「持ち物提示」の例を示す。

例9 「持ち物の提示」の話題展開 (CJL1)

発話番号	話者	発話	大話段
159	B	もし、(もじゅう) がいなかったら、やっぱりナイフのほうが笑いながら いいと思います	10 3つ目の持ち物
160	A	{笑い}	
161	C	ナイフ	
162		・ ・	
163	C	あ、紐はどうですか	
164	A	あ、紐で//何をするんですか?	11 紐
165	C	//縄	
166	C	えーと・ ・木を登る	
167	A	のに使う	

話段「10 3つ目の持ち物」では、3つ目の持ち物を決めるために、今までに挙がった持ち物を検討している。しかし、挙がっていた持ち物では決定することができず、162で沈黙が起き、討論が行き詰まっている。そこで、163でCが「あ、紐はどうですか」と新しい持ち物を提示することで、討論が再開されている。このように、持ち物を提示することで行き詰まりが解消されているものを「持ち物提示」とした。

以上の結果から、討論の行き詰まりの後の話題展開をまとめる。討論の行き詰まりの後には、「条件すり合わせ」「条件確認」「持ち物確認」「持ち物募集」「持ち物提示」という5つの話題展開が見られた。これら5つの話題展開は、結論を決めるという課題達成のために行われたものである。JNSとCJLを比較すると、JNSでは「条件すり合わせ」によって、CJLでは「持ち物募集」と「持ち物提示」によって行き詰まりを解消する傾向が見られた。また、今まで共有されていた意見を再度確認する行為としては、JNSでは「条件確認」で条件の確認を、CJLは「持ち物確認」で持ち物の確認を行っていることが明らかとなった。ここから、討論が行き詰まった際に、JNSは条件について話すこと、CJLは持ち物について話すことで、行き詰まりを解消しているといえる。

5. 討論の行き詰まりと「課題達成・課題非達成」

ここでは、討論の行き詰まりと「課題達成・課題非達成」の関連という視点から、JNSとCJLの討論の比較を行う。

全体としてみると、JNSでもCJLでも、討論が行き詰まった後には、「課題達成」の話題展開のみが表れ、「課題非達成」の話題展開は起こらなかった。ただ、同じ「課題達成」とはいても、その内実は異なっている。

JNSの討論では、討論が行き詰まった際に、「条件すり合わせ」や「条件確認」が行われていたが、CJLの討論ではほとんど見られなかった。これは、JNSが討論の行き詰まりを解消するには、話し合っているメンバーが同じ条件下で話し合うことが必要だと考えているためである。これまで話し合ってきた事柄を直接否定せず、話し合いの前提について話し合うことは、御園生他(2009)でも指摘されているグループの雰囲気や協動的に保つことになると考えられる。また、本研究では、討論の行き詰まった話段と、行き詰まりの後の話題展開について分析を行った結果、御園生他(2009)でJNSの特徴とされていた課題非達成の話段である「脱線話段」、いわゆる雑談は見られなかった。ただ、JNSの討論では、全ての持ち物が決まったあとに、課題非達成の話段が見られた。これは、条件が限定されていたために、課題達成が優先され、討論の途中では行えなかったためであると考えられる。

CJLの討論では、討論が行き詰まった際に、条件を揃えるのではなく、「持ち物確認」「持ち物募集」「持ち物提示」といった持ち物について話し合うことで、討論の行き詰まりを解消していた。これは、課題である「持ち物を決めること」について話し合うことが行き詰まりの解消につながると思っているためである。ここでの課題達成である「持ち物を決めること」に直結した話し合いが行われることは、討論の目的を優先する中国語母語話者の特徴が表れているといえる。なお、CJLの討論でも、討論の条件についての話し合いが行われている箇所も見られたが、討論の行き詰まりの解消のために行われるのではなく、提案された持ち物の必要性を主張したり、持ち物を棄却したりするための理由として挙げられていることが確認

された。これは、CJLは個人で討論の前提についての意見を持つてはいるにもかかわらず、それをすり合わせようとせず、自分の意見の裏付けとして主張することで討論を進めようとしていると考えることができる。以下に例を示す。

例10 CJLで条件についての発話が見られた話題展開 (CJL1)

発話番号	話者	発話	話段
92	A	じゃ、水もいるんじゃない	7 水
93	B	水	
94	A	水、はい	
95	B	でも、無人島//島	
96	A	//無人島、ま、海の中の無人島でしょ	
97	C	一か月分の水どう持つんですか？	
98	A	だから浄水器を持てば	
99	C	あー、浄水器	
100	A	はい、そういう電気のいらないを持っていけば、なんか海、海の水、ちょっと塩が入っている水を浄化することができて、ちゃんと淡水を飲むことができるんじゃないかと//考えて、やはり浄水器がいいんじゃないかと//思いましたね	
101	C	//うーん////うーん	
102	B	//そうですね	
103		..	
104	C	うーん	
105	A	ほかに	
106	C	わたしは絵本	
107	A	絵本	
108	C	絵本持ちたいです	

話段「7 水」では、無人島で暮らす際の「水」について検討されている。Aは浄水器の必要性を主張する際に、無人島について96で「無人島、ま、海の中の無人島でしょ」と個人の前提を述べてはいるが、他のグループメンバーとすり合わせを行おうとはしていなかった。

6. まとめと今後の課題

本研究の結果から、討論の行き詰まりに対する日本語母語話者と中国人

日本語学習者の話題展開は異なっていることが示された。「どのように討論の行き詰まりが起るのか」については、日本語母語話者と中国人日本語学習者に大きな差は見られなかったものの、日本語母語話者が沈黙に耐えかねて、非実質的な発話をする事が確認された。「討論が行き詰まった際にどのような話題展開が起るのか」については、日本語母語話者は、条件について話し合うことで協調的な雰囲気を保ちながら討論を進めていくこと、中国人日本語学習者は、結論に直結する話し合いによって討論を進めていくことが明らかとなった。「条件が限定された討論における『行き詰まり』と『課題達成・課題非達成』の関係」については、討論が行き詰まった後には、「課題達成」のみが表れ、「課題非達成」の話題展開は起らなかつた。条件が限定された討論を行う際は、行き詰まりが起る可能性が高いが、以上の点を意識することで、日本語母語話者と中国人日本語学習者の討論が円滑に行われることにつながるだろう。

本研究では、発話量に差が出にくいことを考慮してテーマを選んだため、討論といっても大学のゼミで行われるようなアカデミックな討論とはいえない。今後は、日本語母語話者と中国人日本語学習者がより実生活で直面しそうな討論場面を設定し、討論の行き詰まりでどのような特徴が見られるかを検討していきたい。

付記

本稿は、2018年日本語教育学会秋季大会で行った発表の内容に大幅に加筆・修正を加えたものである。当日ご意見を賜った方々に感謝申し上げる。

注

1 日本語会話コーパス書記化法

- ・ 沈黙「・」の数で長さを表す
- ? 上昇イントネーション
- // 次の話者の「/」部分との発話の重なるの開始
- / 前の話者の「//」部分と重なっている発話の開始

() 聞き取りにくい部分

* 聞き取りにくい部分のうち意味も音もわからない部分

{ } 非言語的な行動

参考文献

- 河内彩香 (2003) 「日本語の雑談の談話における話題展開機能と型」『早稲田大学日本語教育研究』第3号、早稲田大学、pp.41-45
- 久米昭元・徳井厚子・徐一平 (2000) 「コミュニケーション様式の日米中比較研究—小集団討論の質的分析を通して」『先端的言語理論の構築とその多角的な実証』平成11年度 COE 形成基礎研究費成果報告(代表 井上和子)、神田外語大学、pp.625-672
- 佐久間まゆみ (2002) 「3 接続詞・指示詞と文連鎖」野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則著『日本語の文法4 複文と談話』、岩波書店、pp.119-189
- 杉本武 (2004) 「日本語会話コーパス書記化法」『日本語における話しことばの文法研究』平成13年度～平成15年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究C(2) 研究結果報告書、pp.195-200
- 徳井厚子 (2002) 「小集団討論場面における話題移行の影響要因—なぜ日本人の討論が雑談になるといわれるのか」『異文化間教育』第16号、異文化間教育学会、pp.130-139
- 御園生陽子・程田彩・アネークポンパン、ワッチャリン・柳田しのぶ (2009) 「討論の結論に至るまでの過程—日中談話の対照研究—」『小出記念日本語教育研究会論文集』第17号、小出記念日本語教育研究会、pp.35-49

(みずの えいこ 名古屋大学大学院博士前期課程)

(しばた りゅうき 名古屋大学大学院博士前期課程)

(たわらやま ゆうじ 准教授)

